



# 市民のひろば

## 掲示板

役所の南東すぐ)

【出店日時】毎週日曜日

7時30分～15時頃

【出店料】1日1600円

【問い合わせ先】

責任者(和田)

☎090・3787・4593

担当者(松尾)

☎090・3989・6868

## 編集後記



▼今年初開催のキャリアアチヤレンジデイ。さまざまな可能性を持つ中学生にとって、とても意味のある取り組みだと感じました。目的地を目指して大草原に漕ぎ出すには、舵も帆も必要です。水平線の彼方を目指して踏み出そうとしている若者たちを、これからも応援していきます。(小松)



(山田高校マンガ部)

◆土佐山田ふる里市  
出店者募集  
ふる里市では、毎週日曜日に、農水産物・植木・雑貨等、いろいろな物を販売しています。あなたも、土佐山田ふる里市に出店して販売してみませんか。若い世代の方大歓迎。ぜひ一度見学においでください。  
【出店場所】土佐山田ふる里市(香美市)

## まちの声

◆8月号の感想  
(第52回かみかみクイズ応募から毎月広報誌を楽しみにして)

## おたんじょうびおめでとう



今月満1～3歳の誕生日を迎えるお子さんをご紹介します。


※◎は土佐山田町、●は香北町、●は物部町です。

掲載を希望される方を募集しています。詳細はお問い合わせください。申し込みは誕生月の前月1日まで。  
問 総務課 ☎53-3112

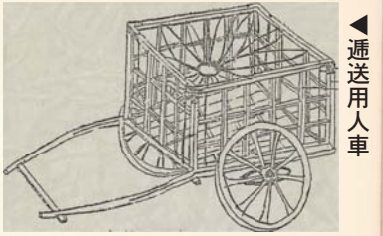
## 第56回 かみかみクイズ

- A. 香美市●●●●支援事業で木材住宅。
- B. 児童・生徒が体験学習や人とのふれあいを通じて学ぶ●●●●教育。

今月の賞品  
全問正解者の中から抽選で3名様に贈呈！  
べる峡温泉 入浴券1名分 & 食事券1000円分  
第54回当選者 豊永ゆかりさん・武内佐子さん・鹿取良子さん(応募総数29通)  
第55回の解答 A. 20 B. 詐欺

## 応募方法

ハガキまたはEメールで①クイズの解答②住所③氏名④電話番号⑤誌面の感想を記入の上、応募してください。応募は1人1通とさせていただきます。  
■応募締切 12月31日(水) 必着  
■あて先 〒782-8501(住所記載不要) 香美市広報委員会事務局かみかみクイズ係  
☑ kamikami@city.kami.lg.jp



◀通送用人車

と、郵便局は繁藤に移され、繁藤郵便局となった。旧天坪村と平山、南国市北部までの広大な範囲を受け持つ郵便集配局である。通送用人車を使用して琴平駅まで走り、鉄道便に連絡した。昭和5年(1930)、国鉄が大杉まで開通して、繁藤駅・角茂谷駅が営業開始すると本格的に鉄道郵便の時代となり、昭和10年、須崎駅から高松駅までが鉄道郵便となった。その後昭和59年、トラック便に変更された。

昭和47年7月5日、繁藤山腹崩壊大災害の通報をする際に、電話線が不通となっていたため、繁藤郵便局の非常用無線電話で連絡され、局長の非常報告は、ラジオニュースで全国に流れた。郵便事業は民営化、宅急便が走り、携帯電話にメールと、郵送や通信は様変わりしたが、山間集落における郵便事業は、恩恵や苦労を伝承する価値があると思われる。(香美史談会)



## 香美史探訪記

### 第65回 繁藤郵便局 (土佐山田町繁藤)

明治4年(1871)の1月、明治新政府は、急速に近代化を進める一環で郵便制度を開始した。翌年に切手、その翌年には葉書も発行されて、全国一律料金の郵便制度が始まった。

明治5年、高知県にも高知や山田など19局が設置され、明治7年、天坪村戸手野の御殿床に戸手野郵便局(大豊町)が開設された。

戸手野には送り番所があって、天保2年(1831)、参勤交代の行列が山越えで本山町へ向かった記録がある。山腹の集落は、岡山・川之江・立川・戸手野・高知の往還の要所であった。

郵便通送は、南は植野、北は土佐川口間を受け持ち、明治24年(1891)の記録では、局長以下11人が勤務していた。そのうち通送人は7人おり、天秤棒で7貫(約26キ)の荷物を担いで、川口・植野間7里(28キ)を走り、荷物を届けたという。



▲現在の繁藤郵便局

明治25年、国道が開通する

## ただいま留学中 No.91

こんにちは、バター・ムダビルです。あだ名はエンビー(MB)です。名前の頭文字をとってこう呼ばれるようになりました。

パキスタンのメアラン工科大学を卒業後、中国の武漢にある华中科技大学の大学院に留学していました。そこで光ファイバーに興味を持ち、2013年4月から高知工科大学の博士後期課程で、岩下克教授(システム・電子)の指導を受けながら、光ファイバー通信の研究を続けています。

高知に来て、最初のころは日本食に慣れるのに苦労しました。でも今はカツオのタタキや刺身、コメがおいしいと感じています。それに高知はのんびりしていて、大都市に比べ住みやすいのではないのでしょうか。研究分野ではいろいろな壁にぶつかっています。レベルの高い学術論文を仕上げなければならず、毎日実験室にこもっています。ところで、9月にパキスタンに一時帰国した時は、高知が懐かしくてすぐに戻りたくまりました。土佐山田がとても気に入っているからです。私を見かけたら「エンビー」と呼んでいつでも話しかけてください。

「なぜわざわざ高知に？」とよく聞かれますが、パキスタンと文化が違う日本にずっとあこがれを持っていました。パキスタン人は、日本人が思っているより親日的なんです。それに、土佐山田のように自然豊かで静かな環境は、研究に最適だと言えるでしょう。

